

科名 外科

対象疾患 CLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発胃癌(2回目以降)

プロトコール名 ビロイ+XELOX(2回目以降)

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	…	14	…	21
1	点滴注	メイン	生食	500mL	ラインキープ 残破棄可	↓				
2	点滴注	側管①	パロノセトロンバッグ アロカリス デキサート ファモチジン注 ポララミン	0.75mg 235mg 9.9mg 20mg 5mg	30分かけて	↓				
3	点滴注	側管②	ビロイ 注射用水 生食 生食	600mg/m ³ 5mL 250mL 500mL	50mL/1h→100mL/1hr→150mL/1hr→200mL/hr 投与開始後15分経過観察。 総液量がビロイ溶解液量の10倍となるようにする。	↓				
4	点滴注	側管③	オキサリプラチン注 5%ブドウ糖液	130mg/m ³ 500mL	2時間かけて ルート毎変更	↓				

内服 ゼローダ 1回1000mg/m²を1日2回 d1～d14投与、d15～d21は休薬

★1クール=21日

~MEMO~

催吐レベル4(90%以上)

〈ビロイ〉

投与中から悪心嘔吐出現し、投与速度が早いと悪心嘔吐の頻度が高まる。(初回に多い)

投与中の恶心嘔吐出現時の対応は別紙参照

初回投与速度での合計時間が1時間を超えたなら次の速度へUp

無菌性の観点から室温にて希釈後6時間以内に投与完了。安定性は30°Cで16時間まで安定。

〈オキサリプラチン〉

必ず5%ブドウ糖で希釈。(薬効がおちる。)

デキサート注は6.6～19.8mgで選択可。

オキサリプラチンのアレルギー反応は他の薬剤と出現形態が違うので注意する。

(現在は4~16ケール目、投与30分経過後に出現することが多いと報告されている。2007.10)